

學生戰線統一へさらに前進

水軍師・巨海隊の飛艇で、泣く目・前には所属ランバを牽引つづいた小型潜水艇が三層浮上している。ともかくも新聞報道のような集会の影も形もないので、不審に思いひとまず全駐留の本部へ事情聴取に行なった。

「今日の集会はいつからか（六日の集会は共産党系であった、と後で知った）破壊する者は？ 集会に参加して無防備の学生たちは警官隊の棍棒の

十一月六日朝、われわれ一行十名が横須賀港を一望に収める臨海公園に到着した時は「全学連」早朝から盛り込みなど告げるあわたしい新聞報道とは対称的にまったく静かであった。町全体もまったく無表情であった。だが四方山と島に囲まれた天然の良港のよい部分はほとんど

メットとヤッケ、登山靴のユニホームを着た社青同と各労組が赤旗を林立させしめき合っていた。呼びかけシュプレヒコールと怒号、さながら興奮のつぼであった。その中で強い照明灯にうつしだされた多くの学生たちの頭口には真白な帯帯が巻かれ血がに

こんでいた。昼の闘争に参加

ばかりで一向要領を得なかつた。よく考えてみるとわれわれは民青が何かと間違われてゐるらしかった。このようなどころに現地での予想以上の壮共の分裂ということがひひしと感じられた。六日寄港取消しによつて六日に予定されていた集会デモは、夜間集会を兼ねた形式で、二時より余りなく行はれた。二時

千名の隊りこみがはじまつており、乱闘眼にヘルメットと
いういでたちの警官隊と対峙
していた。その回りにはヘル
ヤ、その夜は解散した。

「工学教育のあり
方」の講演と各学科別に工学部教
官と教養部学生との懇談会を計画
せよ！
カリキュラムを科学的なも
のに改善せよ！

める臨海公園に到着した時は
「『全学連』早朝から座り込
み」などを告げるあわだだし
新聞報道とは対称的にまっ
たく静かであった。町全体も
まっくろ無長青であった。

組が赤鹿を林立させしめき
合っていた。呼びかうシュブ
レヒコールと怒号、さながら
興奮のうづもであつた。そ
中で強い照明灯にうつしださ
れた多くの学生たちの顔口に

「それから、いつからか（六日の集会は共產常菜であった、と後で知った）破壊する集会に参加せよ」と指令したものである。そこで無防備の学生たちは警官隊の棍棒の

横須賀集会に参加して

無視した警官隊は、そっくり制服の暴力団といふのであったらしい。

乱闘とは別に七日の集会の特徴は、社会党総評の主催にかかわらず民青共産党の参加があったことだ。これは前日までの分裂とは違い、一定限行動の統一の展望が開かれたものとして歓迎すべきだろう。

シャッターを降して人の子一人いない町のデモの後、社青同と民青が別々に降り込みをわっているところへ、激励に行き、その夜は解散した。

そのための各特別討議資料を作成中でありこの二つの企画を圧倒的に成功させる中で、われわれの要求を勝ちとらなければならぬ。工学部教育課程を二年制にせよ、カリキュラムを科学的なものに改善せよ、